

# 満蒙開拓の歴史を後世に



豊丘の満蒙開拓・平和展 8月11日～18日



第667号  
 発行人●豊丘村公民館 館長 原 国人  
 編集人●長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会  
 0265-35-9066  
 印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村  
 (9月1日現在 ※外国人を含む)  
 男 3,364人  
 女 3,455人  
 総人口 6,819人  
 世帯数 2,129戸

昭和四十八年中国から満州開拓犠牲者の遺骨が日本へ返還され、豊丘へも八十

「私の両親も満州引揚者なので開拓の事を知りたいんですが」と展示会を訪れ、

と自賛します。

わけてですが、兄は二歳で敗



満州開拓民入植図

時ではないか。(壬生雅穂)

## 豊丘の満蒙開拓・平和展に思う

資料館運営委員 筒井芳夫

八柱が分骨されました。そしてこれを機に慰霊碑が建設され、碑の下には分骨が埋葬され、犠牲者百十二世帯四百十九名(内三名は生存)が刻銘されています。

より小さく写っています。

このように、満蒙開拓の残した傷は今もなお癒えていない事を改めて知った今回の特別展でもありました。

「村の駅とよおか(仮称)」は、農産物直売所を設けるから遊休農地対策になるといいますが、そのために優良農地を一ヘクタールも潰すことをどう説明するのか▼地主が耕作できないというのなら、貸し借りを仲介する農地中間管理機構(役場が窓口を利用するべきだ。農地がなければ農業後継者など育つはずがない▼これから豊丘村にやってくる観光客は、農地が虫食いのように残された風景を見て喜ぶだろうか。建造物を作ればもう農地には戻らない。少し立ち止まって考えるべき時ではないか。(壬生雅穂)

# 満蒙開拓・平和展を終えて

## 延べ400名近くが見学

八月の十一日から十八日まで開催しました「豊丘の満蒙開拓・平和展」には、たくさんの皆様にご来場いただきました。誠に有り難うございました。八日間の参観者の延べ人数は四百名近くになりました。ちょうどお盆を挟んでの期間でしたので、県内外から帰省していた方の参観も多くみられました。また、十四日にNHKスペシャルで旧河野村が取り上げられたこともあつ

て、放送を見てやってきた村外の方も多かったように思います。中には、番組を見ているうちに「どうして河野村に行かなくてはならない」という心境になり、東京からわざわざやって来た豊丘とは全く縁もゆかりもない方もおられました。

さて、本特別展中にドラマもありました。

このように、満蒙開拓の残した傷は今もなお癒えていない事を改めて知った今回の特別展でもありました。

「子孫に美田を残さず」という言葉があるが、実際には先祖が苦勞して農地を守り耕し、財産として引き継いできた。ところが近年、豊丘村ではその財産が減りつつある。広くて平らな優良農地に、大きな建物が次々とできていくのだ。建物を作る側はこのことに痛痒を感じないらしい▼生産性の高い農地に企業が建物を建てるには、農地法により条件がつく。河野の広大な水田に作られた横浜ゴム豊丘工場は、従業員の三割を農家から雇用することを条件に建設された。しかし同工場の採用担当者に取材したところ「従業員は二二〇人だが、農家の割合が何人かというデータはない。採用の際に農家かどうか確認していない」といふ▼林地区に建設が予定されている「村の駅とよおか(仮称)」は、農産物直売所を設けるから遊休農地対策になるといいますが、そのために優良農地を一ヘクタールも潰すことをどう説明するのか▼地主が耕作できないというのなら、貸し借りを仲介する農地中間管理機構(役場が窓口を利用するべきだ。農地がなければ農業後継者など育つはずがない▼これから豊丘村にやってくる観光客は、農地が虫食いのように残された風景を見て喜ぶだろうか。建造物を作ればもう農地には戻らない。少し立ち止まって考えるべき時ではないか。(壬生雅穂)

八月十一日から十八日まで、「豊丘の満蒙開拓・平和展」が交流学习センターゆめあるてのオーブンスペースで開催された。また十一日には、開会セレモニーとして満蒙開拓平和記念館専務理事の寺沢秀先生の記念講演会が行われた。

展示会では、豊丘中学校の生徒が、実際に満州に渡った村民の方から聞いた話の感想を紹介したほか、当時満州で使っていた農機具を展示するなど、平和の尊さを知る良い機会になった。



当時満州で使っていた農機具

「君たちは本物です。将来の豊丘は君たちに安心して任せられます。」

## 段丘

# リニアの声

## 第4回

### 子供たちの未来のために

林里一 峠 瑠璃

先日とあるキャンプ場で美しい焚火を見た。太い丸太を立てて置き、上部の輪切りの面に十字の切れ込みが五つ六つ七つほど入っていて、中心が上から下に向かつてよく燃えている。これは、スウェーデントーチと言う北欧では昔から一般的な焚火の方法で、網や鍋を乗せて直火料理やバーベキューができる仕組みになっている。切り込

だ側面に火の灯りが漏れる様子が綺麗で、釜と灯りとストロブの三役をこなせる。このようなシンプルで効率が良い、後片付けも楽チンなものって本当に素敵だと思つた。身の回りのものをきれいに片付ける方法は私の永遠のテーマかもしれない。豊丘村はゴミの分別が細かく、東京で何でもポイポイ捨てていた私は驚いた。捨てるのがこんなに大変ならいいそのことを物持たない方がいいのでは、と思つた。最小限の物を無駄なく使つた方が、日々の暮らしが楽になる。捨てるという作業を格段に減らすの



源流地の谷中流 万年の大地の胎動を記す谷

である。人工的に作つたものはどうしても仕組みが複雑で、捨てるのも困難になる。だから物を持つときには、その後始末まで考えなければならぬ。

世界最速のリニアは、日本の技術が進歩している証しとして本当に嬉しいことだが、永遠に必要とされるものとは限らない。リニア建設工事はまだまだ問題がたくさんある。今年の六月八日、小園源流地でトンネル

ル残土の埋め立てが中止になった。「リニア残土NO！小園の会」によって、小園の下流域の住民五百六十名の七割に及ぶ三百九十一名の署名が集まった。源流地に捨てられなくなった残土はどこに行くのだろうか？他の候補地である戸中と本山更生会に全てを捨てるのだろうか？ 下流には南小学校もある。

地下水の枯渇も、水路の付け替えなどで農業などへの被害は数年回避できたとしても、固有種が多い南アルプスに穴を空けることはとても大きな環境破壊になる。南アルプス限定種の動植物は六十一種類。この生物の多様性を守ることは、子供たちの未来を守ることに繋がる。

沿線付近や新しく建つ高

# 武田信玄の狼煙あがる

九月三日の朝、今年で九回目を迎えた「武田信玄狼煙上げ」が、飯田下伊那から上伊那に向けて十五市町村、二十七か所をリレーして行われました。豊丘村でもこのイベントに参加し、林原運動公園を会場に、公民館、史学会、林原木門地区役員、地元育成会、PTAや、子どもたちが参加して行われました。

この事業は、戦国時代の知将、武田信玄が情報伝達の絆として、伊那谷から諏訪へ、そして甲斐へと築いた「武田信玄の狼煙」を現代に再現し、狼煙を通して世代を超えて地域の大変な歴史文化を学び、地域と地域の人々をつなぐ「連携」を伊那谷から諏訪へ、そして山梨県へと目指そうとする大きなイベントであり、「武田

信玄狼煙会（事務局 高森町公民館）が統括し、行政の枠を超えた取り組みへと発展してきています。現在は、上伊那、諏訪地域、山梨県の甲斐市や韮崎市にも広がっており、将来は、『躑躅ヶ崎館』（つづじがさきやかた）甲斐国守護武田氏の本拠地である甲府に築かれた館で、守護所があった。現在、跡地には武田神社がある。までリレーすることが期待されています。

晴天に恵まれた当日、関係者が運動公園に集まり、三本の木杭でやぐらを組み、その上に着火剤の稲わらを置き、地元で採集した軽トラック二台分のスギの葉を積んで準備を終えました。その後、史学会長の木下正道さんから狼煙の歴史についてお話を聞いた後、



狼煙の合図でリレー

運動公園の展望台から飯田市の水島山、風越山麓公園の神の峰、喬木村の富田城山から順次狼煙が立ち上るのを参加者一同で確認し、十時十五分に地元育成会会長の点火で真っ白い煙が立ち上ると歓声が上がりました。この狼煙の合図は高森町の吉田茶臼山、吉田古城、松川町の台城へと順次リレーされました。

（公民館長 原 国人）

## ジジババの教育力とは 公民館学習会

8月17日



話し合い学習の様子

八月の公民館学習会は数名ずつのグループになって、現代の子どもの教育について気になること、或いは私たちが年配の世代ができることについて話し合い学習を行いました。その主な意見をひろつてみましょう。

豊丘の子は素直で挨拶もできるが外で遊ぶ姿が見えない／親の携帯で子どもがゲームに熱中する姿が気になる／親が子どもにもつと注意を与えることも必要／古いことでも良いこともあるから家族で話し合うことが大事／子どもができたことをほめてあげる／昔ながらの風習を伝える／地域の顔なじみの子どもにはできるだけ声をかけろ／昔は家族がまとまっていたなど、家族や地域を見直す良い機会になりました。

（公民館長 原 国人）

## 士からの恵み噛みしめ健康長寿

シリーズ「元気な高齢者」②5

三島作恵さん 九十三歳

下佐原在住



大正十二年に、広い土地で農業を営む両親のもと、七人きょうだいの末っ子として、山吹に生まれた。長兄とは親子ほど離れていたので大変可愛がられ、恵まれた環境で幼少期を過ごした。当時は少なかったが、高等科二年まで学んだ後、村の奉仕隊二十人の一員として、名古屋の機械工場へ働きに出た。既に戦争末期であったため約半年と短い期間であったが、国のためを思い懸命に働き、帰郷後は家の仕事を手伝った。

やがて、長兄の世話により六歳上の男性と結婚した。初めての天竜川越えであり、しかも山深い地であったため大変驚いたことが、遠い昔のこととして懐かしく思い出される。御主人は、四十年間シベリアに抑留されていた苦勞人であった。帰郷後、しばらくは小規模ながらも農業で生計を立てていたが、三六災害を機に建設

は、ほとんど一人で農業に対応していた。御主人は、戦争での苦勞の影響か、退職後病気がちとなり十四年もの間介護に明け暮れた末に、五年前に九十三歳で亡くなった。二人の子供に恵まれ、同居する長男夫婦、孫一人と四人家族で和やかに暮らしている。花を育てるのが趣味で、家の周りには多く

会社へ就職し、約二十六年間勤めた。結婚当初は六人家族であったが、実家が農家で農業に慣れていた作恵さん七人きょうだいは、現在姉一人との二人だけとなつてしまつたが、四人の曾孫に恵まれ、元気に暮らしている幸せを噛みしめ、皆に感謝の気持ちで一杯である。天気の良い日には、家の回りを散歩し、食べ物好き嫌い無く何でも美味しく食べられる。これこそ健康長寿の源であろうと感じた。

文責 桐崎 長一 宮下 正弘

# 50チーム参加予定も雨で中止に

## 第28回 24時間ソフトボール大会

毎年恒例の二十四時間ソフトボール大会が八月二十七日に南小学校グラウンドで開催されました。今年五十チームが参加し「あかまつ」と「あかまつ」の二チームに分かれて二十八日の午後三時まで二十四時間試合を続ける予定でしたが、六試合目には雨足が強くなり、残念ながら二十ニニングをもって、大会は中止になりました。

二十四時間ソフトボール大会  
実行委員長  
中園 紘

平成二十八年度の二十四時間ソフトボール大会が、八月二十七日(土)午後三時プレイボールで開催されました。今年は、参加申し込みチームが例年より多い五十チームで、盛り上がりを感じました。また、試合の他にも楽しんでもらおうとストラックアウトなどの

アトラクションを用意したり、とん汁やかき氷、ポツプコーンなどの振舞いを用意しましたが、途中からの雨で残念ながら中止になってしまいました。



リードを許す「あかまつ」チームの反撃

この時点の天気は晴天で気温も高く、最初は熱中症に気をつけるよう呼びかけていました。試合も順調に進んでいましたが、四試合目の途中から雲行きが悪くなり、午後七時ころからは雨がポツポツと降りだしてしまいました。天気予報を見ながら、少し休めば雨も止むだろう」と思っていた

でしたが、この大会ですが、毎年懸念されていたチーム数減少の解消と企画の見直しを図るために、実行委員会を結成し、会議を重ね検討を行ってきました。そして、二十七日(土)の午後から実行委員でグラウンド整備などの準備をし、二時四十分頃から開会式を行いました。村長の始球式に続き、豊丘中学校野球部二チームによつて一試合目が始まりました。続く二試合目は、飯田女子高校ソフトボール部と豊丘48(ヨンパチ)オールスターズの対戦でした。飯田女子高校の皆さんは、長野県壮年ソフトボール大会で優勝した48(ヨンパチ)オールスターズに悪戦苦闘の様子

その時の試合は若い人達が多く、試合の続行を望む人が多くいましたが、雨で危険であることやグラウンドのことも考えて、止めざるをえませんでした。この日のために参加の申し込みをしてくれたチームの皆様、野菜や果物、菓子等の差し入れをくださった皆様、そして準備をしてくれた実行委員の方々に御礼申し上げます。

掘越の堀本丈吉さんは行者の修業を積んだ後、教導職試験にいられて教化に努めていきましたが、あるとき夢枕に「これより東に荒川岳という前人未到の霊山がある。ぜひ開山(最初に登頂すること)をするように」との神のお告げがありましたので、その啓示に従って開山を決意しました。

だんだんとお山に登って行きましたが、しばらくして前後左右どちらを見ても皆目行く先がわからないところに出ました。さすがの御眷属様もたじろぎました。どうにもならず途方に暮れていますと、どこからともなく天狗様に似たような、鳥に似たような珍しいものが、わずか十歩ほど前に現れました。変な動物であると思つて近寄って見ようとそばまで行くと、

教育委員会公民館では、混沌として変化の激しい世の中の動きをいくつかの切り口で考えてみるために、「世界の今、日本の今から、私たちの生活を考える。」をテーマにした連続講演会を八月から始めています。

時事問題セミナーは、本年度、公民館の新規事業として企画されました。豊丘村の公民館事業は、各種講座やグループ活動など多くの村民の方々が参加し活発に行われています。しかし、一般成人のニーズに

# 時事問題セミナー

## 始まる

成人講座運営委員  
中部二

代田美智子

時事問題セミナーは、本年度、公民館の新規事業として企画されました。豊丘村の公民館事業は、各種講座やグループ活動など多くの村民の方々が参加し活発に行われています。しかし、一般成人のニーズに

あつた事業が比較的少ないことから、本年五月に、成人講座運営委員会が八名で発足し、開催に向けて検討を行ってきました。私も運営委員として参画しています。

本セミナーは、サブテーマを「世界の今、日本の今から、私たちの生活を考える。」とし、八月から十一月までの間に四回の連続講演会を行います。地元ゆかりのある方々が講師を引き受けてくださり、直面する時事問題を分かりやすく語っていただけるものと思っています。

さて、第一回のセミナーは、八月二十一日に「ゆめあるて」で開催されました。講師は信州大学経済学部教授の眞壁昭夫先生で、講演のテーマは「経済のグローバル化と我々の生活」です。この講演テーマと講師の経歴、当日配布された講演資料を見ると、政治や経済に疎い私には、一歩後ずさりしてしまう内容でしたが、実際に講演が始まるとそんな心配はふつと

和やかな雰囲気させてくれました。先生の講演をお聞きし、今起きている様々な国際問題が経済のグローバル化と大きく関わっていることを実感しました。また、私たちの生活でも常に密接に関わっていることも。これからも関心を持ってニュースを見ていきたいと思っています。

難しい話題もわかりやすく

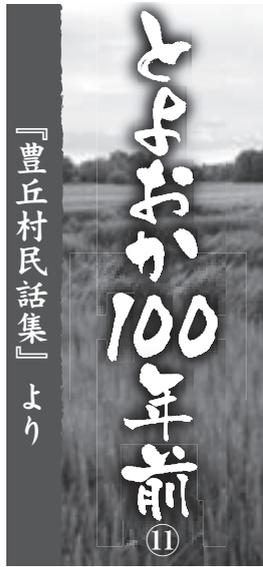
掘越の堀本丈吉さんは行者の修業を積んだ後、教導職試験にいられて教化に努めていきましたが、あるとき夢枕に「これより東に荒川岳という前人未到の霊山がある。ぜひ開山(最初に登頂すること)をするように」との神のお告げがありましたので、その啓示に従って開山を決意しました。

だんだんとお山に登って行きましたが、しばらくして前後左右どちらを見ても皆目行く先がわからないところに出ました。さすがの御眷属様もたじろぎました。どうにもならず途方に暮れていますと、どこからともなく天狗様に似たような、鳥に似たような珍しいものが、わずか十歩ほど前に現れました。変な動物であると思つて近寄って見ようとそばまで行くと、



堀本家にある「山開正位」の碑

(編集部注 この話は堀本家に伝わる話とは異なる部分があります。)  
(豊丘村民話集・第壹輯 (昭和五十二年)より) 文責 壬生雅穂



### 荒川岳開山①

武田次郎

～シリーズ～ 豊丘の自然

No.155

オナガサナエ (サナエトンボ科)



山田、前人未到の偉業へ。初の「連続トリプルスリー」ほぼ手中（信毎、9/7）。同一シーズンで打率③割、⑩本塁打、③盗塁をマークするトリプルスリーの条件を現時点で満たしたからだ。しかも、山田を含めて過去十人が記録しているが、二度達成すれば史上初めてという訳。ここで、記録について考えてみる。本塁打と盗

塁は積算されていくが、打率は今後の結果しだいに変化し、三割を切ることもある。今、私がやろうとしている「今を記録する」の分子は、私の調査結果そのもの。分母は伊藤先生の十五年、二十五年、三十五年の積算結果で、かなりちがってくる。それにしても、絶滅とか準絶滅危惧とは、どうやって決めているのだろうか。（山田 拓）

どうぞよろしく 豊丘中学校ALT アマダ先生



二期期より中学校に新しいALTの先生が着任しました。プライベート・アマダ先生です。アマダ先生はアメリカのメリーランド州の出身で、幼稚園・小学校で美術などの指導を行っていました。日本語は大学で学んだ後、独学で勉強中

「こんにちはアマダです。私は美術がとても好きで、特に絵を描くことが大好きです。豊丘村はとても素敵なおとこで、村民の皆さんもとても親切です。これから多くの方々と知り合っていきたいと思っております。学校では部活にも参加したいと思っています。よろしくお願ひします。」

「自宅裏のビニールハウスを見せただけながらお話を聞きながら扉を開けると中には、大きな形も様々なサボテンが数えきれない程並んでいた。小学校三年生の時に、さし木で増やしたのが、サボテン作りの始まりだ。今では田村原と壬生沢東にもビニールハウスがあり、約二百種類、鉢数は数えきれない。つまようじの先程の小さい種を蒔く。一定の大きさになったら柱状のサボテン糸で縛る。大きくなったら切って鉢へ移す。さらに大きくなったら鉢も大きい物に替えていく。この繰り返りで鉢数を増やしていく。種類によって栽培温度が違うので、同じハウスで育てるには工夫が必要で大変だ。花も四十年近くかかって、やっと咲く種類もあり、

咲いた時の喜びは、ひとしおだ。信州サボテンクラブという愛好会に入っている。年五、六回せり等を行っている。特に五月には信濃路交流会を開催して愛好者や業者百五十人程集まり、せりや情報交換の場になっている。初対面の人もとすく仲良くなれるので楽しい。クラブ員は定年後の人がほとんどなので、若い人達にも

サボテンの良さが広がればいいと思う。「村の駅ができたら、小さくて一般の人でも気軽に育てられるようなサボテンを出荷したいと思う」と夢を語ってくれた。テキーラの原料や月下美人もサボテンの仲間だと知り、サボテンを見る目が少し変わった取材だった。 文責 正木淳子 原明美



田村原のビニールハウスには大小さまざまなサボテンが並ぶ

趣味びと② サボテン作りは仲間づくり

笹久保 大倉 晃さん (62才)



リーグ戦で切磋琢磨 夜間ソフトバレーボール大会

七月に開幕した夜間ソフトバレーボール大会は、八月十日に女子の部が終了し、混合の部も八月二十日に幕を閉じました。

今年も、女子の部・混合の部ともに七チームが出場し、和気あいあいとした中にも、勝利を目指して真剣に試合をする姿が見られました。

大会結果 女子の部 優勝 河野フレンドC 三位 河野フレンドA

混合の部 優勝 カッターズ 三位 ヒップ

「短歌会 夢あるて」 さゆうり 枯れ里芋萎える炎暑の日「どうよ」とばかり滑見伸ぶ 大原真由美 早やお盆母と迎え火焚き終えて涼風のなか車椅子おす 筒井 恵子 つねよりも早起きをして草を取る早起きした分 土甦る 松尾ヒサコ 南天の背丈をしのぐ雑草をとり汗ふく妻と烏帽子岳みる 松下 泰見 ほの暗き根元にひっそり若荷花蝶も来なずばなぜに咲きおり 福澤貴美恵 喰べ過ぎとわれは昼餉を控えて妻の食欲羨しく視つむ 富永 博道

日雷田切橋への七曲り 磯部セツ子 蓮の実に落暉さまよふ湖心かな 田中 静 蝉しぐれ平和の礎碧き海（沖縄平和公園） 片桐 洋子 雨上がり待っていたかに蟬の声 下平 玲子 一斉に通じた如し百合開き 三島 保子 湖の風にほどよき吹かれ大花火 三島 里子 青葙を刈れば生まれる水の音 木下 眞水 計報聞く恩師の笑顔蟬時雨 宮下 公 赤向日葵好みし友も雲の上 宮下 純子 肩車の親子天龍川涼みおり 丸山 時子 菊の花色を添えたる戦歿碑 林 恵美子 即身佛半眼しかと青嵐 北原 昭子

俳句 短歌

（八日念） 八十五才まで働き通した此の身体脳梗塞に見舞れかなし 松島 八重 光りつつ線香花火の吹き出ればやんちゃ坊主のまなこ輝く 河原 梨花 盆も過ぎうすばかげろうわが庭に集りてくる四匹五匹 吉澤 新子 灼熱の日々に水分とりながら術後を病みいる友を思えり 紅 梅 草刈り中黄蜂四匹吾を襲い初期処理遅れ苦しき体験に 寺元 和実 （あしたば短歌会） 朝からの気急さ午後まで引き摺りぬ庭の雑草生き生き青し 大倉 知江 満天の星の光に惹かれしか幼の思考は宙に彷徨う 毛涯百合子 励み来し体操教室休めば我を案じて友より電話 壬生 千春 テレビにてゲリラ豪雨のニュースあり郷は慈雨とて野菜いきづく 久保田 妙 卵抱く雉に気づかず草刈りぬ飛び出た母鳥声の悲しき 北澤 秀子 湯冷めすな風邪を引くなど幼き日背に塩塗り呉れき祖母あり 福澤 亀人

（豊丘川柳クラブ豊柳会） ▼課題「古」 互選 逝く母が生き生き笑う古写真 原 美風 捨てられぬ思い出つまる古雑誌 林 桃子 古時計わが家の音を今日も打つ 西元 峯子 古い服脱ぎ捨てて行く新社会 吉川 燎 ▼課題「成」 互選 いい友でいいライバルで成り立つ輪 小澤 凜 成金のメッキがはげて元の兵 桃沢 健介 悔しさが成長遂げた金メダル 安田 喜子 成り行きで運命の糸に繋がれる 久保ひろし ▼自由吟 桃沢健介 選 早稲中稲一緒になって頭下げ 市沢 照子 都知事選勝ち馬となりとがめ無し 福沢 勝美 軸吟：メダル掛け若人たちが生むドラマ

「お詫びと訂正」 【誤】片桐正博 【正】片桐雅博 ここに深くお詫びし、訂正いたします。